

令和8年度 熊本大学個別学力検査（前期日程） 【地学】 解答例

1

(問1)

ア	イ	ウ	エ	オ
大陸移動説	パンゲアまたは 超大陸	海洋底拡大説	海溝	プレートテクト ニクス

(問2)

90

(問3)

③

(問4)

(解答例)

アルプス山脈やヒマラヤ山脈は、プレートの収束境界において、大陸と大陸の衝突が起きたために大陸地殻が厚くなり隆起が起きて形成された。(65字)

2

(問1)

(あ)

(問2)

(い)

(問3)

(え)

(問4)

C種

(問5) 造礁サンゴの化石が、生息していた姿勢を保った状態で産出した事から、  
この石灰岩が堆積した海域は、低緯度地域のような水温の高い浅海域だった  
ことが予想できる。また植物の葉や枝、種子がともに産出したことから、  
その周辺の陸域には植生があったことが分かる。(121字)

3

(問1)

あ	い	う	え	お
70	97	0.01	35	2000

(問2)

①	②
MgCl <sub>2</sub>	KCl

(問3)

③	④	⑤
表層混合層	水温躍層 (主水温躍層)	深層

(問4)

北太平洋	南インド洋	北大西洋
時計回り	反時計回り	時計回り

(問5)

(ア) 熱塩循環 (または深層循環)

(イ) グリーンランド沖や南極の周辺海域で温度低下と塩分上昇した表層海水が高密度化して海底 (海底付近) に沈むことで発生する。(58 字)

4

(問1)

(ア)	②	
(イ)	角度C	32.8°
	角度D	23.4°

(問2)

(ア)	歳差運動
(イ)	(解答例) 太陽の周りを公転する地球の軌道や地軸の向きおよび傾きが変化すると、地球が一定時間に受け取る熱量が変化して気候が変わる。(59字)

(問3)

恒星までの距離	③
<p>(計算過程)</p> <p>絶対等級 <math>M</math>, 見かけの等級 <math>m</math>, 恒星までの距離 <math>d</math> (パーセク) の間には  <math>M = m + 5 - 5 \log_{10} d</math> の関係がある。  <math>M</math> に <math>-5.2</math>, <math>m</math> に <math>1.0</math> を代入し, <math>\log_{10} d = (1.0 + 5 + 5.2) / 5 = 2.24</math>  <math>d = 10^{2.24}</math>                  これに一番近いと考えられるのは iii) の 170 パーセクである</p>	